

管診鏡を利用した雨天時浸入水調査

管路診断コンサルタント協会

雨天時浸入水の影響は、処理場施設の冠水や人孔からの溢水、トイレ・台所等での排水不良の苦情として顕在化し古くから認識されています。処理水量の増大につながり下水道経営に影響を及ぼす問題です。

雨天時浸入水の発生源は宅内排水設備および管路施設であり、管きよや汚水ますおよび取付管等の修繕・改築、蓋の交換等が主な対策手法とされています。

その発生箇所を絞り込むために多くの時間と費用がかかることが課題の一つではありますが、より効率的に対策へつなげるために「管診鏡」によって雨天時浸入水の状況を確認することができると考えています。管診鏡は人孔に入ることなく地上より人孔および管きよ内を目視でき、特別な操作技術を必要としないことから比較的容易に点検作業を行うことのできる機材です。

この優位性を活かし降雨の影響のあるタイミングで確認することで雨天時浸入水の状況を捉えるものです。ストックマネジメント計画における点検・調査結果と併せて活用いただくことで雨天時浸入水の状況を効率的把握できると考えています。



管診鏡MC

マンホール点検用360°カメラ

360°照射ライトと360°カメラでマンホールに入ることなくマンホール内部を鮮明に撮影しますマンホールの点検調査を安全かつスピーディに実施します



管診鏡PC

管路点検用高解像度管口カメラ

高解像度カメラと強力ライトでマンホールに入ることなく管路内部を鮮明に撮影します管口からの点検調査を安全かつスピーディに実施します

管診鏡MC／PCの特徴



管診鏡PCによる管内撮影写真